

# 元旦礼拝

2022年1月1日



## 2022年教会標語聖句

起きよ。光を放て。あなたの光が来て、  
主の栄光があなたの上に輝いているからだ。

イザヤ書60章1節

シオン教会信仰指標：～人生が変わる！御言葉の光に照らされて～

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



## 礼拝順序

開会の祈り

司会者

信仰告白

使徒信条・標語聖句唱和

賛美

新聖歌 18「おお御神をほめまつれ」

祈 禱

\* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！ \*

献身の祈り

力丸嗣夫 兄

賛美

新聖歌 393「新しき地に」

聖書朗読

創世記 1章 1～3節

ヨハネの福音書 1章 1～5節

説教題

「やみは光に打ち勝たなかった」

祈 り

恵の感謝と応答の祈り

頌 栄

「主の祈り」

後 奏

勝子 姉

### 交わりの三省

\* 互いに愛し合っていますか

\* 互いに赦し合っていますか

\* 互いに祈りあってますか



## 元旦礼拝

2022年元旦

光よ。あれ。と仰せられた。

すると光ができた。



交わり ① 互いに愛し合っていますか  
の ② 互いに赦しあっていますか  
三省 ③ 互いに祈りあっていますか

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド 教団

北九州シオン教会

〒800-0038 北九州市門司区大里原町6-10

牧師：山崎銀次郎 TEL 093-381-4395

## 『やみは光に勝たなかった』

創世記1章1節・3節 ヨハネ福音書1章1節～5節

創世記1章1節・2節

1節：初めに、神が天と地を創造した。

2節：地は形がなく、何もなかった。やみが大いなる水の上にあり、神の霊は水の上を動いていた。

3節：そのとき、神が、『光よ。あれ。』と仰せられた。すると光ができた。

ヨハネ福音書1章1節～5節

1節：初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。言葉は神であった。

2節：この方は、初めに神とともにおられた。

3節：すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは、なに一つもない。

4節：この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。

5節：光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。





しばしば今日のテキストのように、創世記の冒頭の部分と、ヨハネ福音書の初めの部分とを、対照して学ぶことができますが、この二つの個所の冒頭の類似性に、驚きを感じずにはられません。単純に考えられるのは、使徒ヨハネが、創世記を愛読している…と言うことです。ユダヤ教社会では、職業・貧富の差なく、旧約聖書を学び、イスラエルの民の歴史と、モーセの律法を学んで成長してきているのです。

同時に、ガリラヤ湖畔でイエス・キリストに出会って、最も若い弟子となり、3年半と言う年月、主の愛する弟子として、最後の十字架の間近に、主の母マリヤを支えて、主からの最後の遺言を受けたのです。

ヨハネ福音書19章26節～イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子(ヨハネ)とをみて、母に『女の方。そこに、あなたの息子がいます。』と言われた。(27節) それからその弟子に、『そこに、あなたの母がいます。』と言われた。その時から、彼女を自分の家に引き取った。…と言ういきさつがあるほど、ヨハネには神のみ子イエス様と、最も深い霊的感性が与えられたのだと想像します。ですから、ヨハネ福音書は、他の3福音書を、共観福音書と呼ばれる中で、ヨハネ福音書は、違った見方からイエス・キリスト様を、“神の子”と宣言してその“神聖”を、あらゆるところで際立たせて記録しているのです。

## 《創造と光》

この冒頭のみ言葉の中には、創世記の天地創造の記録を引き継いだような、記述があり、創世記と、ヨハネ福音書とが、何の違和感もなく、ドッキングできる内容の同一性と、悠久の、時間を超越した永遠性が溢れ出てくるのを感じるのです。この二つをつないで見ましょう。

- \* 創世記…初めに、神が天と地を創造した。…そのとき、神が、『光よ。あれ。』と仰せられた。すると光ができた。
- \* ヨハネ福音書…初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。言葉は神であった。この方は、初めに神とともにおられた。

すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは、なに一つもない。

この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。

光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。

※『光よ。あれ。』この御言葉こそ、ヨハネの言う「ことばは神とともにあった。言葉は神であった。」につながるのです。そして、この神が、“イエス・キリスト”なのです。

こうしてつないで読んでみると、紀元前1800年(今からする4000年前)ごろに記録された天地創造の様(天地創造そのものは何億年前でしようか…)が、一気につながり、創造主である神の、創造の初めからお心に抱かれたご計画が、ひとつの神の恵として、今の私たちにまで、つながり届いている…と言うことを、実感できる素晴らしい恵みではないでしょうか。

## 《不安と恐れが続く年でしょうか?》

2022年と言う、新しい年、私たちは未知の世界へ踏み出すわけですが、特に、100年に一度…と言うパンデミックの3年目に突入する、新しい年、不安や、恐れがなお続くと思うと、輝かしい年の初めとして、一概に喜びと期待をいだけない思いがあるでしょう。

しかし、今朝、聖書のテキストをもう一度読み直してみましょう。

初めに、神が天と地を創造した。…そのとき、神が、『光よ。あれ。』と仰せられた。すると光ができた。

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。言葉は神であった。この方は、初めに神とともにおられた。

すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは、なに一つもない。

この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。



光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。

光なるお方が、闇の中に輝いている…！

私は、月二回佐伯の礼拝のために、北九州から佐伯へと車で走りますが、まあ！高速で走る時には、トンネルの多いこと。特に大分の宮川内インターから佐伯・蒲江までにいくつトンネルがあるでしょう。しかも一つのトンネルが 3,000m以上あるところが四か所あります。ナビが、「3km 先出口です」とアナウンスされると、気持ちがグーンと暗くなります。対向車のライトの光が、白内障がかっている目には、光が乱反射して、瞬間何も見えなくなることがあります。そんな時、トンネルは曲がっているの、余ほど出口に近くなると先の明かりが見えてこないのですが、“3km 先出口です…”と言うアナウンスは、私には、そのたび、励ましの言葉に聞こえるのです。やがて出口の光が見えてくると、一気に心が明るくなるのが不思議です。

\*いつまで続くの…？ このコロナ禍は。\*この病は何時になったら解放されるのだろう。\*私はあの重じゅうとく篤な病に罹りかん患し入院してから、17年になりますが、いまだに後遺症や新しい症状で悩まされている…。でもそんな毎日の中で、朝の祈りの中で、主の臨在に触れ、多くの方々とみ言葉の分かち合い(リビングライフと言う冊子で、聖書本文黙想してその受けた恵みを分かち合う仲間-36人-)でつながっている喜びで、日常は喜びに満ちています。

## 《明るい方へ》

明るい方へ 明るい方へ

一つの葉でも陽のもるところへ やぶかげの草は

明るい方へ 明るい方へ

羽根はこげよと火のあるところへ 夜飛ぶ虫は

明るい方へ 明るい方へ

一分もひろく陽のさすところへ 都会(まち)に住む子らは

苦難。悲しみ。孤独の人生を歩みながら、自然の中に息吹くのちと、その作り主、命の源を見つめながら、多くのどん底にある人々の心の支えとなったけなげな詩(童謡詩)で、どれほど多くの人が光を見出してことでしょう。

光!! それは、ただ物理的に燃え輝く“火”や“光線”ではなく、ヨハネが詠(うた)った、

“このいのちは人の光であった。光はやみの中に輝いている。”

“いのちの光”です。更にヨハネは、やみはこれに打ち勝たなかった。と、宣言しているのです。

私たちはこの新しい年を、何を目指して歩いて行きますか、何を目標に掲げて、進んで行けますか。現代は、沢山の目標が、次から次へと手を変え、品を変えて、皆さんをより良い世界へといざなうように、誘惑してまいります。しかし多くの人がそこに喜びも平安も、慰めも見出すことなく、チルチルミチルの“青い鳥”のように、手に取ってみると、色あせて求めていたものと違うものに変化しているのです。

## 《時は近づいている》

トンネルには出口があります。神が想像された世界には、創造⇒確立⇒運用・墮落⇒調整・律法⇒再創造計画の推進・イエスキリストの到来⇒回復・十字架の贖い⇒回復と終末の希望⇒神の国としての教会…このような一連の神のご計画は、神の創造のご計画の中で、着々と進んでいるのです。

私たちの目の黒いうちに、主の再臨があるという確証はありません。クリスチャン(主の十字架の贖いによる罪に御赦しを頂いて、自由の身となった人)に与えられた恵みと希望は、罪赦されたものとして、主と共に日々歩むことが許される、自由な人生なのです。祈りの中で、主イエス様にお会いし、厳しい日常生活の中で、主イエス様の導きを仰ぎ望み、光のある方へ…と、時を移し続けてください。



主なる神・創造者である神は、ご自身、完成の時を見つめ、整えながら、あなたに目を注いでおられます。一人の滅びるをも良しとはなさらず、呻(うめ)きと痛みを伴いながら、あなたの完成と、世界の再生ために、神みずから闘っていただきます。ですから、主なる神(イエス様)に目を(仰ぎ)注ぎながら、この一年もまた、喜びと平安と感謝と恵にあふれつつ、進んでまいりましょう。

今年、何が展開するでしょう。主の時はどのように開かれて行くのでしょうか。主は私に何を用意してくださっているのでしょうか。このトンネルを抜けると、どのような景色が、状況が展開するのでしょうか。

常に期待と光を求めて、祈りの中で、主の臨在を感じながら、今日を、明日につないでまいりましょう。

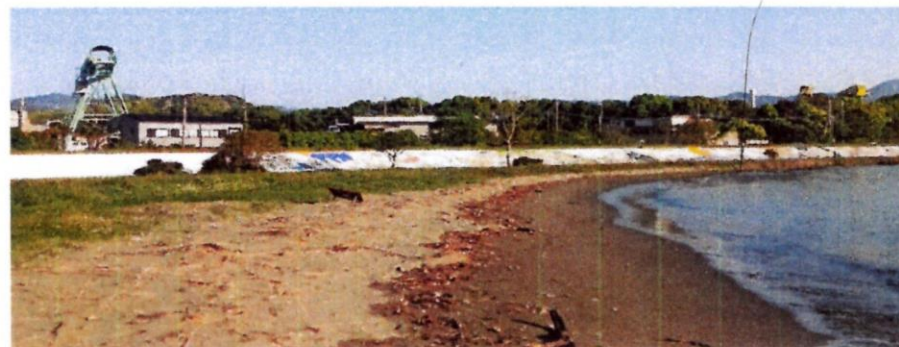
♪ やみは光に打ち勝たなかった ♪



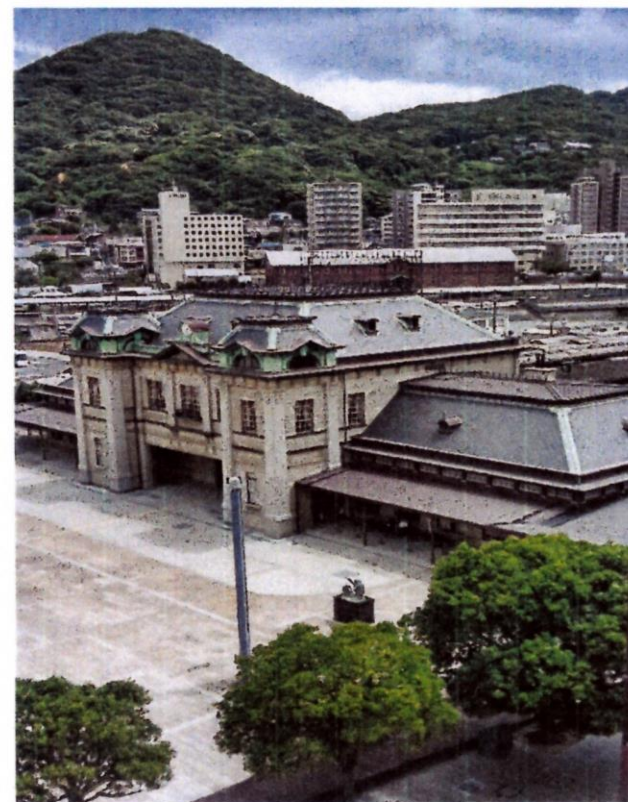
この壁画は、佐伯市の番匠河河口にある、堤防護壁の壁面に、画家の谷川氏が無償で数年に亘って描き続けられた、長さ、およそ100m(幅3.5m)に及ぶ、日本最大級の壁画です。佐伯特有の海の魚たち、鳥、亀、波、おとぎ話の乙姫…等々。

2021年12月30日現在なお製作中です

(6)



番匠河口の壁画の全容、白くカーブしている帯状の個所



シオン教会の最初の伝道地、『門司港の駅』重要文化財  
借家の教会は、この駅から400mほど山手にあった。

(7)